

総合的な学習への架け橋 となる情報教育のあり方

大分県中津市立豊陽中学校

やまが あきら

山香 昭

【実践の概要】

学級崩壊、いじめ、不登校、少年犯罪……。新聞やニュースで、このような情報を耳にすると、小学生やその保護者、さらには地域の方も中学校への不信感や、中学校生活への不安をもつことであろう。

そこで、本校の中学1年生の生徒が、そんな小学生の不安をすこしでも取り除くために、学校行事、部活動紹介、先輩や友達、校則、授業のようす、学校設備、学校の歴史などを、自らが取材してホームページとしてまとめ、さらにTV会議システムを利用して、校区の小学生と直接交流を行った実践である。

【論文内容の紹介】

1 実践のねらい

本校に入学予定の小学生に対して、豊陽中学校を紹介するホームページを、学級で協力しながら作成することをとおして、

- ・主体的に情報を活用する能力を育成する。
- ・今の学校生活を見直し、自己の生き方を考えることができる。
- ・総合的な学習の時間への取り組み方を知ることができる。

2 研究の実践

オリエンテーション

ホームページ作りのねらい（誰に対して、何を、どう伝えるか）確認した。

必要な情報を集める（情報収集）

情報の客観性を求めるため、校内アンケートや地域の方へのインタビューを実施した。

情報をまとめる（情報加工）

表計算ソフトでデータをグラフ化したり、

デジカメの写真をドローソフトで加工した。学校紹介ホームページ作成（情報創造）
まとめた情報から、どんなことがいえるかを考えた。また、小学生が単に見るだけではつまらないので、クイズ形式を取り入れた。

小学生と交流（情報伝達）

ホームページを一般公開した。校区の小学校へはCDに焼き付けて配付し、感想などのアンケートもお願いした。さらに、TV会議で中学校生活の質問に直接答えた。

ホームページの更新（新たな情報の収集）

TV会議やE-MAIL、アンケートで、小学生からホームページの感想をもらうことで、自分たちが伝えたかったことが、どれだけ相手に伝わっていたかを確認し反省した。

それらの意見を参考にして、その後、一部ホームページを更新したグループもあった。

3 成果と課題

ホームページを作成、公開することで、校内の小学生のほか、卒業生や地域の方からもE-MAILをとおして感想やアドバイスをいただいた。生徒は「情報は発信するところに集まる」ということを実感したり、情報を発信することの責任を感じることができたと思われる。また、小学生との交流をとおして、2年生になるという自覚を持つことができ、自己の学校生活を見直すきっかけとなった。

しかしながら、生徒は機器の操作は得意であるが、インタビューやアンケート内容を考えたり、集めた情報から考察したりすることは、とくに苦手であることが分かった。また、教師は生徒へどこまで助言すべきか、評価をどのように行うか等、新たな課題も見つかった。

今回の実践の反省を生かしながら、これから本格的に行っていく「総合的な学習の時間」へのあり方を考えていきたい。

（本実践のURL）

<http://www.yukichi.nejp/hoyo/991-1/index.html>